

新年のご挨拶

マニラ日本人会会長

清水 光彦



## 新年のご挨拶

マニラ日本人会会長 清水 光彦

マニラ日本人会会員の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

令和二年の始まりです。

昨年は4月まで平成三十一年、5月に令和に改元された記念すべき年でしたが、今年、令和二年となり本格的に「令和」の歴史が刻み始めたという感じがします。

皆さんは、昨年4月1日新元号「令和」が発表された時、どのように感じられましたか？ 私は、これまでの元号に比べて、格式を保ちながらも、清新且つシャープなイメージを持つ、格好良い元号だなと、思いました。「令和」の出典は皆さんご存じの通り、万葉集「初春の令月にして気淑（よ）く風和らぎ、梅は鏡前（きょうぜん）の粉（こ）を披（ひら）き、蘭は珮後（はいご）の香（こう）を薫（かお）らす」という歌です。意味は「初春のよい月に、風は柔らかかで、梅は鏡の前の美人のおしろいのように白く咲き、蘭は衣服にまとう香のように薫っている」という意味だそうです。時は旧暦2月（如月）、現在でいえば3月ころ、未だ寒さは残っているものの、梅の花が咲き始め春の息吹に心躍らせる情景。これからも毎年この時期を迎えると、私たちはこの「令和」の出典に想いを馳せ、心躍らせる気持ちになるのではないのでしょうか。この歌の作者であるとされる大伴旅人は大納言まで出世した人ですが、酒に関する歌も多く残しており、個人的には親近感の持てる好きな歌人なのです（笑）。

さて、近年日本とフィリピンとはゴールデンエイジとも称される友好関係にあります。その関係は昨年も益々密になったといえるでしょう。一昨年のデータとなりますが、日本人のフィリピン訪問観光客数は約63万人、フィリピン人の日本訪問観光客数も初めて50万人を超えるに至りました。2014年の18万4千人から実に約2.7倍となります。

マニラ日本人会の会員者数も、2014年頃にご家族の会員を含め約3,400名でしたが、現在は3,700人と着実に増加してきております。マニラ日本人学校の生徒数についても、2014年当時約380名だったのですが、ここ数年は約460名となっております。数年前から、とくに小学校低学年のお子さまが急増し、元気な笑顔一杯の活気ある学校となっております。

また、当地に来られる日本人も従来の駐在員、英語学習者に加え、経済発展続くフィリピンで活躍の機会を求める若い世代、特に女性が増えていることも日比関係の将来を考えると頼もしい限りです。

昨年2月からは日系航空会社によりマニラー羽田、初めての夜行便が就航、私たち日本弾丸出張の可能性のある会社員には必ずしも歓迎されるものではありませんが(笑)、フィリピン人インバウンド観光客の増加に大きく寄与するものと期待されます。飲食についても従来のラーメン、とんかつに加え、街のあちこちで日系メーカーのビール、パン、スポーツドリンクなどを味わえる機会が増えました。

昨年11月には、日本の文化、飲食、芸能などを包括的に紹介するマニラで初めてのイベント「ジャパン・フィエスタ2019」が日本国大使館、日本政府観光局などの主催により開催、2日間に渡り

約 18,000 人の来場者を集め、フィリピン人の方々の日本への関心の高さを感じさせました。メイン・ゲストの有名女性アーティスト、サラ・ヘロニモの人気ぶりも凄かったです。福井県出店の若狭牛のお寿司（2貫 500 ペソ！）が完売されたというのにも驚いた次第です（私も食べましたが、大変美味しかったですね。）。

昨年、日本は天皇陛下即位という輝かしい年である一方、台風 15 号、19 号を始めとした各地での台風被害など、多くの深刻な自然災害に見舞われた年となりました。痛ましい事件、事故も多くなりました。10 月には沖縄首里城火災という悲しい出来事もありました。

日本で、またフィリピンで被害に遭われた方々へ心よりお見舞い申し上げますと共に被災地の一刻も早い復興をお祈り致します。

最後となりましたが、すべてのマニラ日本人会の会員の皆さま、関係諸団体・個人の皆さまに改めて感謝の意を表すると共に、今年令和二年が皆さまとご家族にとって素晴らしい思い出に彩られる年となることを心より祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

（了）